



話し合いの様子



地域の秋祭り



小学生向け認知症
サポーター養成講座

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・「にこにこローズカフェ」の開催にあたりスタッフ全員で認知症カフェの特徴と効果を共有。開始時のスタッフは全員サポーター養成講座受講者であるが、今後新たにスタッフとして活動して下さる方にも講座の受講をすすめ、認知症についての理解を深める。
- ・カフェの翌月は振り返りの会を開催し、「自己紹介で自分の事をみんなに話せたことが嬉しかった」「自分で作った作品を自宅に飾り嬉しそうに見せてくれた」など本人や家族の感想を共有し次回以降に活かしている。
- ・季節を感じられる創作活動や地域の方の特技を披露するプログラムなどカフェの内容は、みんなで話し合いながら決定し、地域を巻き込んだ楽しい会を目指している。(短冊の笹は さんの家からもらおう！秋祭りの踊りは地域のサークルの に頼もう！クリスマスは サークルに本格的な演奏を披露してもらおう！)など楽しい企画満載。
- ・一人ではカフェに参加できない方への声掛けや同行はスタッフや参加者で協力しながら支援。
- ・認知症カフェを開催する部屋の広さ的に、多数の参加者の受け入れが難しく、認知症の人や家族、地域で孤立している人などを優先せざる得ない状況で、地域の方に広く周知声掛けができない状況がある。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

- ・習志野市では基礎編・応用編を各 1 回開催。受講対象は認知症サポーター養成講座受講修了者。市内のキャラバン・メイトや市の職員等が講師となり、グループワークでは認知症地域支援推員がファシリテーター役を担っている。

基礎編

認知症の理解を深める(講座)

認知症の人の理解と対応(グループワーク)

どうしてこの行動をとってしまうの? 認知症の人にとって大切なことは何?

応用編

習志野市の認知症施策と取り組み

認知症の人とのコミュニケーション・接し方(演習・グループワーク)

効果的な挨拶をしてみましょう・あなたの親しみやすさを伝えます

事例会話で聴き上手を体験しましょう

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

< 効果 >

- ・民生委員等の強みを活かし、地域で気になる方や高齢者相談センターに相談があった方等をカフェにお誘いしている。
- ・参加者からの相談は認知症地域支援推進員が話を聞き、高齢者相談センターの職員と連携し介護保険につなげるなどの支援をしている。(コロナ禍で何年も家に閉じこもりになった方がカフェの参加を機にデイサービスにつながったケース等)
- ・参加者の特技や力に合わせ役割を持っていただいている。長年踊りを習っていたご本人にカフェで披露してもらったり、茶話会の配膳やテーブルふき等、ご本人ができることをやって頂いている。参加者から「次回を楽しみにしている」との言葉が聞かれ、開始時の目的でもある高齢者が笑顔で過ごせる場となっている。
- ・認知症地域支援推進員がカフェ以外でも地域で社会参加できる機会を持てるよう、ご本人のニーズに合ったサークルやイベントを紹介し、必要時には速やかに高齢者相談センターとの連携を図っている。

< 課題 >

- ・認知症のご本人がチームの一員として参加し、本人のやりたいことをチームで実現すること。

8 チームのアピールポイント

- ・「にこにこローズカフェ」は、認知症のご本人、家族、地域の高齢者の笑顔を大切にしています。
- ・キャラバン・メイト、民生委員・児童委員、高齢者相談員等の地域福祉のキーパーソンを中心としたチームメンバーで構成されておりチームワークは抜群、準備段階からいつも楽しくにぎやかに地域を巻き込みながら活動しています。

9 今後の活動について

「にこにこローズカフェ」を拠点に、アルツハイマー月間の普及啓発活動、ご本人のやりたいこと実現に向けての活動など、チームメンバーと一緒に検討する。

鎌ヶ谷市

チーム名
【チームオレンジ】

タイトル
【認知症にやさしいまちづくりの歩み】

1 自治体情報（令和7年10月1日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|------------------|---|-------|-----------------------|
| 110,034 人 | 31,178 人 | 28.3% | 21.08K m ² |
| 鎌ヶ谷市は こんなところ！ | <p>鎌ヶ谷市は千葉県の北西部、北総台地のなだらかな緑の大地の上に広がる都市です。</p> <p>市内には、東武野田線・新京成線・北総線・成田スカイアクセス線の鉄道4線と道路網が発達しており、都心から25キロメートル圏内にあることから、首都近郊の住宅都市として発展してきました。</p> <p>一方、こうした発展の中にありながら、豊かな農地や緑の環境を持ち、梨の名産地としても全国にその名を知られています。</p> | | |

2 活動の概要

| | |
|------------------------|--|
| 開始時期 | 令和4年1月 |
| 実施主体 | 市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ） |
| 活動内容 | ・ロバのマスコット作りを通じて、ご本人・ご家族の居場所作りをする ・地域のイベントに参加し認知症普及啓発活動を行う |
| 活動頻度 | 月1回程度、地域のイベントに関しては随時参加 |
| 参加費 | なし |
| 運営財源 | 市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ 寄付 ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ 個人 ） |
| メンバー構成 | ステップアップ講座受講者（オレンジサポート員）、住民、認知症の本人、地域包括支援センター職員、認知症地域支援推進員、医療・介護関係職員 |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 認知症地域支援推進員 |

| | |
|------------------------|--|
| チームオレンジの類型 1 | 第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他 |
| チームオレンジ三つの基本 について 2 | 3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和4年1月に新たにオレンジサポート員となった方が住む築40年を超える住宅団地を中心に、コロナ禍中の閉じこもりがちな生活と、交通の便が悪い立地条件などを踏まえて、歩いて少人数で通える場所（サポート員の自宅）でロバのマスコット作りをスタート。『登下校する小学生のランドセルにロバのマスコットをつけてもらうのが夢』と言うメンバーの言葉に、認知症地域支援推進員が関係者への周知活動をサポートし、輪が広がる。活動拠点も住宅団地内にある市の事業の高齢者の交流の場である老人憩いの家の集会室に移り、毎月1回の定期活動化と日頃の自宅での作成活動にも発展。時には認知症の方や介護者も参加される機会もあり、近隣施設や地域のスポーツ団体の監督から材料の寄贈や、管理事務所の方が一緒にロバを作ってくださいることもあり、周囲の理解や協力も広がり出している。

また、別の地区のオレンジサポート員と認知症地域支援推進員が認知症カフェの開催時間に集まりロバを作り、交流の輪を広げて普及・啓蒙活動を行っている。また、ロバ以外にも拠点によって、「認知症マフ」を作成しているところもあり、各拠点で特色が出てきている。

4 活動内容

ロバ、認知症マフ作り等をきっかけとして定期的に集まり、認知症の普及啓発活動を行う。地域で認知症のような症状がある方、または認知症の本人を誘って一緒に制作をすることで、地域の輪を広げて顔の見える関係づくりを行う。多職種がメンバーになることで、困りごとがあった際に必要な支援に繋げることができる体制を作る。

作成したロバは認知症サポーター養成講座を受講した小学生や高齢者と関わりのある民生委員等にお渡しし、身に付けていただくことで認知症の普及啓発活動や見守りをしていただいている。

認知症マフに関しては、市の事業や地域包括支援センターのイベント等で希望者に配布している。カフェを活動拠点としているオレンジサポート員はカフェのイベントに参加しながら、認知症の本人・その家族の話を傾聴し、一緒にロバ作りを楽しんで交流を行い、地域に根差した関係づくりを行っている。

令和8年1月現在、6か所の活動拠点があり、交流の場として定着しつつある。また、地域のイベントに参加し、認知症に関するクイズラリーや作ったロバをお渡しして外部発信を行っている。活動拠点によっては、自分たちの地区で地域包括支援センターと協力し、家族交流会を開催している。

北中コミセンロバづくり

これはベース ロバづくり

認サポ GH 理事会



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

住民の主体的な活動とペースを尊重し、口バを作ることだけが目的にならないように、認知症地域支援推進員と一緒に参加し、普及・啓発活動を行った。

活動拠点や外部との交流が増えたことで、認知症普及啓発と離れた方向にいつてしまう可能性があり、中心となるメンバーが軸となる認知症の人への理解や交流の場、地域作りの考えを持って活動していただくようにしていかなければならない。また、ひとつのことに執着し過ぎると次の活動に繋がっていかないというデメリットもあるため、様々な人の意見を取り組み、講座を行う等の活動にも広げていくことも配慮している。

野菜カフェ 見守り応援団

認サポ GH 管理組合

小学校認サポマスコット寄贈メッセージ



6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年度に1回2時間ステップアップ講座を市庁舎内で開催している。

< 講座内容 >

- ・キャラバン・メイトによる認知症サポーター養成講座の復習
- ・認知症サポート医の講義 かかりつけ主治医との関係づくり、認知症の方の体調管理の大切さ
- ・社会福祉協議会職員より「ボランティアについての心得」
- ・市・認知症施策担当より「他市事例紹介とオレンジサポーター活動発表」
- ・グループワーク（「こんな活動していただけますか」「こんな活動ならできるかも」）

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

< 効果 >

活動拠点が増えることで、今まで行けなかった方々にも足を運んでいただき交流の場として広がりつつある。地域のイベントに参加することで幅広い年齢層の方々にも認知症の普及啓発活動が行えている。

< 課題 >

オレンジサポーターが自主性を持って活動してもらうにはどうしたらよいか。活動拠点が広がったが、各地域での特色を活かした活動に繋げるにはどのようにしたらよいかという課題がある。

8 チームのアピールポイント

口バ作りに参加されているチーム員、住民、認知症の本人・その家族の何気ない言葉から個別の課題、地域の課題、新しい活動ができるようにしている。

参加者が話しやすい環境をすること、じっくりと信頼関係を作ること、全員で活動しているという意識を持ち、小さなことからコツコツと行っている。オレンジサポート員の意見として、ひとりでは活動するのは難しい、不安があるという方が多いが、チームとしてなら活動できるサポート員は多く、実績を積んでいくことで認知症の本人・家族との交流や地域づくり活動に自信をつけてもらっている。自分たちが行っている活動を少しずつ外部に発信できてきているため、実感を持って活動している。

9 今後の活動について

認知症の人・その家族、地域との交流を深めていく。活動を外部発信し、地域のイベントに足を運ぶことで地域づくりをおこなっていく。

各地区での特色を活かした活動にしていきたい。

認知症にやさしいまちづくり

一緒に口作りをしながら、
認知症の出来事や不安な事等
話しあってみませんか？

出来上がった口バは認知症にやさしいまちづくりのシンボルとして市内の児童の皆さんに配布出来たらいいな...って思っています！

連絡先：小林苗子

日時 場所 グリーンハイツ第3集会所

認知症にやさしいまちづくり

一緒に口作りをしながら、
認知症の出来事や不安な事等
話しあってみませんか？

出来上がった口バは認知症にやさしいまちづくりのシンボルとして市内の児童の皆さんに配布出来たらいいな...って思っています！

連絡先：東部ひまわりの会 西川さ子

日時 場所 東部学習センター

認知症にやさしいまちづくり

一緒に口作りをしながら、
認知症の出来事や不安な事等
話しあってみませんか？

出来上がった口バは認知症にやさしいまちづくりのシンボルとして市内の児童の皆さんに配布出来たらいいな...って思っています！

連絡先:

日時：毎月第2木曜日 13時半～15時
場所：北中沢コミュニティセンター

認知症にやさしいまちづくり

認知症にやさしいまちづくりのシンボルとして市内の児童の皆さんに配布出来たらいいな...って思っています！

おなまえ () す

日時：毎月第2木曜日 13時半～15時
場所：北中沢コミュニティセンター

四街道市

チーム名
【オレンジカフェクローバー】

タイトル
【地域に根差したオレンジカフェ開催】

1 自治体情報（令和7年4月1日現在、面積のみ令和7年1月1日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|------------------|--|-------|-----------------------|
| 96,371 人 | 27,049 人 | 28.1% | 34.52K m ² |
| 四街道市は こんなところ！ | <p>当市は県北部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接しています。 人口は昭和40年代から、大型団地が数多く誕生したことにより急激に増加しました。 また、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして自然と都市機能が調和しながら成長してきたまちです。</p> | | |

2 活動の概要

| | |
|------------------------|--|
| 開始時期 | 令和3年12月12日 |
| 実施主体 | 市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（民間デイサービス） |
| 活動内容 | オレンジカフェ |
| 活動頻度 | 2か月1回 |
| 参加費 | 1回100円 |
| 運営財源 | 市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ） |
| メンバー構成 | 認知症当事者、介護者家族、デイサービス職員、 介護支援専門員、元民生委員、オレンジボランティア、 包括支援センター地区担当 |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 認知症地域支援推進員 |
| チームオレンジの類型 1 | 第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他 |
| チームオレンジ三つの基本 について 2 | 3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

初期集中支援チーム対象者N様が趣味である三味線を披露できる居場所を探していた。そのため、地域のデイサービス事業者や民生委員とカフェ開催について話し合いを重ね、すでに登録していたオレンジボランティアにも声をかけカフェを開催した。N様も近所の協力者の支援を受けて、三味線の演奏ボランティアとしてカフェに参加した。実施内容等みんなで話し合いながらカフェの開催をしている。

4 活動内容

偶数月第2日曜日 13時30分～15時30分。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・皆様に活躍していただく場になる事を大切にしている。
- ・心地よい居場所と思えるような雰囲気作りを目指している。
- ・イベント保険加入により安心して参加いただいている。
- ・デイサービス事業者が地域貢献できる存在になるよう、自治会とも開催を共有している。
- ・毎回、脳トレを意識した誰でも楽しめる体操やレクを実施している。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

- ・四街道市で定例開催のステップアップ講座に参加いただいた。
- ・内容：四街道市の動向について、チームオレンジとは、当事者の思いについて、認知症の人も安心して暮らせるまちへ～当事者からのメッセージ～、認知症対応についてグループワーク。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

カフェの開催を毎回自治会掲示板に掲載しているので地域住民の方々の参加も多く、交流を深めながら、地域に開かれたカフェ運営ができています。

<課題>

- ・開催日が2ヶ月に1回のため、認知症ではない方でも忘れてしまう場合がある。
- ・徒歩で参加されているので天候に左右される。

8 チームのアピールポイント

- ・皆様に活躍していただく場になる事を大切にしています。
- ・心地よい居場所と思えるような雰囲気作りを目指しています。
- ・イベント保険加入により安心して参加いただけます。

9 今後の活動について

地域の方と情報交換しながら居心地の良いカフェを継続する。

四街道市

| |
|-------------------------------------|
| チーム名 【オレンジカフェりんごの樹】 |
| タイトル 【日替わりカフェの店で行うオレンジカフェでの支え合い】 |

1 自治体情報（令和7年4月1日現在、面積のみ令和7年1月1日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|------------------|--|-------|-----------------------|
| 96,371 人 | 27,049 人 | 28.1% | 34.52K m ² |
| 四街道市は こんなところ！ | <p>当市は県北部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接しています。 人口は昭和40年代から、大型団地が数多く誕生したことにより急激に増加しました。 また、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして自然と都市機能が調和しながら成長してきたまちです。</p> | | |

2 活動の概要

| | |
|------------------------|--|
| 開始時期 | 令和4年10月 |
| 実施主体 | 市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ） |
| 活動内容 | オレンジカフェ |
| 活動頻度 | 1ヶ月に1回 |
| 参加費 | 600円程度 |
| 運営財源 | 市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ） |
| メンバー構成 | 認知症当事者、介護者家族、オレンジボランティア、介護支援専門員、理学療法士3名による交代制（市内勤務）、地域包括支援センター職員 |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 認知症地域支援推進員 |
| チームオレンジの類型 1 | 第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他 |
| チームオレンジ三つの基本 について 2 | 3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和2年11月から日替わりシェフの店さくらそう（現在の日替わりカフェりんごの樹）で開催しているオレンジカフェの発起人に認知症地域支援推進員が働きかけ、令和4年6月に認知症サポーター養成講座、10月にステップアップ講座に参加してもらった。発起人がオレンジボランティアになったことで、認知症の理解が進み、カフェ運営にも活かされている。

4 活動内容

発起人がオレンジボランティアとなり、オレンジカフェのメンバーとアルツハイマーイベントの準備をしたり、オレンジカフェで会食する食事作りをして、認知症の方やその家族の居心地のよい居場所づくりをサポートしている。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・認知症地域支援推進員が声かけし、オレンジカフェ発起人が認知症サポーター養成講座やステップアップ講座を受講したことにより、認知症の理解が進み、より充実したカフェへと発展している。
- ・当事者の参加しやすい工夫として、オレンジボランティアが食事を提供したり、専門職による体操、イベントを企画している。
- ・介護者が本音で話せる工夫として、当事者と介護者が分かれて参加する日を作っている。オレンジボランティアが当事者のサポートや介護者の相談役を担っている。
- ・オレンジカフェ終了後に、オレンジボランティアと専門職でカフェの反省と振り返りを行っている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

- ・四街道市で定例開催のステップアップ講座を立ち上げ時に受講いただいた。
- ・講座内容：市の動向、チームオレンジとは、当事者の思いについて、認知症の人も安心して暮らせるまちへ～当事者からのメッセージ～、認知症対応についてグループワーク。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・参加者が馴染んできたこともあり、和やかな雰囲気の中で会が運営されている。参加者同士が自発的に会話をしたり、声掛けをしたりとお互いに支え合うような雰囲気が自然と生まれている。

<課題>

- ・場所のことも考えると、受け入れ人数に限界がある。
- ・事務局や運営は包括支援センターが担っており、オレンジボランティア・参加者の自主運営への移行は難しいと感じている。

8 チームのアピールポイント

- ・認知症の人とその家族、地域の人が気軽に集い、語り合える居場所である。
- ・おいしい食事を一緒に食べることで、自然と会話が生まれ、認知症がある方もない方も関係なく仲良くなれる居場所である。

9 今後の活動について

- ・オレンジボランティアが食事を作り、地域とおいしさでもつなげるオレンジカフェとして、認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らせる居場所を作っていきます。

四街道市

チーム名
【チームまるん】

タイトル
【同じ団地のサロンで認知症の方を支え合う事例】

1 自治体情報（令和7年4月1日現在、面積のみ令和7年1月1日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|------------------|--|-------|-----------------------|
| 96,371 人 | 27,049 人 | 28.1% | 34.52K m ² |
| 四街道市は こんなところ！ | <p>当市は県北部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接しています。 人口は昭和40年代から、大型団地が数多く誕生したことにより急激に増加しました。 また、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして自然と都市機能が調和しながら成長してきたまちです。</p> | | |

2 活動の概要

| | |
|------------------------|--|
| 開始時期 | 令和5年10月 |
| 実施主体 | 市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ） |
| 活動内容 | おしゃべりサロン |
| 活動頻度 | 月2回 |
| 参加費 | 1か月100円 |
| 運営財源 | 市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ 社協からのサロン活動費助成 ） |
| メンバー構成 | オレンジボランティア、団地住民、当事者、民生委員 |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 認知症地域支援推進員 |
| チームオレンジの類型 1 | 第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他 |
| チームオレンジ三つの基本 について 2 | 3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

生活支援コーディネーターの声かけで始まったおしゃべりサロンに認知症当事者の方がいた。元々、近隣住民が助け合って当事者を支援していたが、当事者の認知症が進行してきたため、認知症地域支援推進員が働きかけて令和5年9月にサロンに向けて認知症サポーター養成講座を開催。地域ケア会議にサロンの立ち上げメンバーも参加していただき、当事者の状況や支援方法について理解を深めた後、令和5年10月にステップアップ講座の参加を促し、チームまるんを結成する。

4 活動内容

月2回居場所を開催。会話を促進させるためのお茶とお菓子を準備し、通常12名前後、イベントの際は20人程度の住民が集まっている。茶話会以外にボランティア団体による講演会、市の出前講座を依頼しながら開催している。令和7年5月には初のバザーを開催し、収益でサーキュレーターを購入し自治会に寄付することができた。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・団地内で会った時には「あいさつ」をする。移動販売(週3回)の際に次の開催日の呼びかけをする。開催日前には団地の各棟の掲示板にポスターを掲載し広報している。
- ・参加者が集まって何か一つ「よかった」と思えることがあるよう準備している。
- ・参加しやすいよう開催日に直接自宅を訪問し「一緒に行こう」と声掛けをしている。
- ・複数人の意見を取り入れて内容を考えている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

- ・四街道市で定例開催のステップアップ講座を立ち上げ時に受講いただいた。(講座内容)市の動向、チームオレンジとは、当事者の思いについて、認知症の人も安心して暮らせるまちへ～当事者からのメッセージ～、認知症対応についてグループワーク

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・参加者は単に参加するだけでなく、受付やチラシを作成など、当事者性が芽生えている。
- ・互いに心配し合い、協力する地域づくりにつながっている。
- ・七夕かざりを自治会の前に飾ることで、子供が短冊を書いてくれ、子育て世代ともつながる事ができ、主催者の喜びにつながっている。
- ・初のバザーを開催する中で自治会館に手すりの設置をしたいとの意見がまとまった。収益では費用が足りなかったが、自治会役員と話し合う中で、県の住宅公社に要望し、手すり設置してもらうことができた。参加者が安全に出入りできるようになった。

<課題>

- ・ボランティアの高齢化。

8 チームのアピールポイント

団地に住んでいる顔なじみの関係だからこそ、安心して助け合えるアットホームなチームである。

9 今後の活動について

- ・今参加できていない人が1人でも多く参加できるようにしたい。
- ・とにかく居場所を開催し続ける事。

四街道市

チーム名
【チーム旭ヶ丘】

タイトル
【認知症になっても安心して住み続けることができる街 旭ヶ丘】

1 自治体情報（令和7年4月1日現在、面積のみ令和7年1月1日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|------------------|--|-------|-----------------------|
| 96,371 人 | 27,049 人 | 28,1% | 34.52K m ² |
| 四街道市は こんなところ！ | <p>当市は県北部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接しています。 人口は昭和40年代から、大型団地が数多く誕生したことにより急激に増加しました。 また、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして自然と都市機能が調和しながら成長してきたまちです。</p> | | |

2 活動の概要

| | |
|------------------------|--|
| 開始時期 | 令和5年4月 |
| 実施主体 | 市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ひまわりサロン） |
| 活動内容 | オレンジカフェの立ち上げ～運営、声かけ訓練 |
| 活動頻度 | オレンジカフェ 1回/2～3か月 声かけ訓練 1回/年 |
| 参加費 | オレンジカフェ 100円/回 |
| 運営財源 | 市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ） |
| メンバー構成 | オレンジボランティア 旭ヶ丘自治会スタッフ |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 認知症地域支援推進員 |
| チームオレンジの類型 1 | 第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他 |
| チームオレンジ三つの基本 について 2 | 3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和5年、旭ヶ丘で認知症高齢者が自転車で出かけ行方不明となり、亡くなられた。それ以前にも認知症は問題となっていたが、これを機会に地域住民の認知症への関心が高まる。同年5月地域住民向けの認知症サポーター養成講座、6月にはステップアップ講座を開催し、多くのオレンジボランティアが誕生する。受講者及び地域住民がチームオレンジとなり、今までの自治会のサロンを認知症支援のためのオレンジカフェ旭ヶ丘として立ち上げた。みなみ地域包括支援センターをはじめ、地域の医療や介護の事業所職員による専門職チームがフォローしていくこととした。

4 活動内容

・オレンジカフェ運営

・声かけ訓練開催：令和6年から高齢者の独り歩きから事故を防ぐため、「高齢者一人歩き声かけ模擬訓練」を開催。道に迷った高齢者役に専門職チームを配置し、参加した地域住民が声をかけ保護する訓練を行った。令和7年にはさらに、地域の事業所（郵便局や商店等）にもご協力いただき、見守りネットワークを広げる事ができた。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

オレンジカフェ：当初サロンとオレンジカフェの違いが判らないとの意見が多く、何回も話し合いを重ねて認知症の方への理解を得た。今もカフェ終了後にはボランティアミーティングを行い、自分たちの対応やできること、できないことなど振り返っている。
声かけ訓練：令和6年に1回目の開催。まずは参加者が、気になる人、困っている人に気づき声をかけることを目標とし、令和7年の2回目の開催時は、郵便局や地元企業にも参加を募り、地域の見守りネットワークを広め、深めることを目標とした。地域の力が発揮できるように、何回も話し合いを重ねた。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和5年旭ヶ丘の住民向けにステップアップ講座を開催。オレンジカフェ開催に向け、認知症の理解と認知症の人とのかかわり方（話を聞くことの重要性）に重点を置いた。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果> 認知症を特別に思わなくていい、ものわすれや迷子は認知症の人だけでなく誰でも起こりえること等、自然に「新しい認知症観」に切り替わってきた。
認知症について地域住民が自分たちのことととらえるようになった。
<課題> 認知症についての理解が深まったのは、自治会に参加する一部の住民であり全体としてはごく少数。相談に来なかったり、自治会に参加していないの方が問題を抱えていることが多い。地域住民や自治会スタッフも高齢化している。今後も認知症の啓もう活動が必要である。

8 チームのアピールポイント

子育て世代からその親及び祖父母迄3世代がかかわっている。自治会は高齢者支援だけでなく、夏祭りやハロウィン等も行っており、ひまわりサロンの活動が地域全体の活性化につながっている。その中で認知症支援も自然発生しており、今後も認知症になっても安心して生活できる街が作られていくと考える。

9 今後の活動について

・ひまわりサロン旭ヶ丘のオレンジカフェは、地域の活動で自治会館を使用していない月の開催なので、2~3か月に1回の開催となるが、今後も継続していく。
・声かけ訓練は、今後も年1回開催していく。

富里市

| |
|-----------------------------|
| チーム名 【 チームオレンジ 】 |
| タイトル 【 ご本人も参加者もみんな笑顔！！ 】 |

1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|-----------------|---|-------|-----------------------|
| 49,772 人 | 14,665 人 | 29.5% | 53.88K m ² |
| 富里市は こんなところ！ | 富里市は、千葉県の北総台地のほぼ中央に位置しています。 特産物は、すいかと人参です。特産物を活かしたイベントとして 「すいかロードレース大会」や「にんじんウォーク」を開催して います。 | | |

2 活動の概要

| | |
|------------------------|--|
| 開始時期 | 令和5年6月 |
| 実施主体 | 市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ） |
| 活動内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・各認知症カフェの参加 ・認知症見守り声掛け体験参加 ・アルツハイマー月間に合わせてイベント会場の装飾 ・年に2回の懇談会 |
| 活動頻度 | 認知症カフェ 月に1回程度 地域のイベントに関しては随時開催 懇談会年2回程度 |
| 参加費 | 0円 |
| 運営財源 | 市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（なし） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ） |
| メンバー構成 | <ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジコーディネーター ・認知症地域支援推進員 ・チームオレンジメンバー ・各地域包括支援センター |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 認知症地域支援推進員 |

| | |
|------------------------|--|
| チームオレンジの種類 1 | 第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他 |
| チームオレンジ三つの基本 について 2 | 3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症サポーター養成講座を受講した人に、ステップアップ講座の受講を促した。ステップアップ講座受講者にチームオレンジ活動の参加を呼びかけ、チームオレンジを結成し活動を開始した。

4 活動内容

認知症カフェ

認知症カフェは市内に7か所があり、月に1回程度実施している。メンバーそれぞれが参加できるカフェに参加し本人や家族と関わり、認知症の理解を深めている。

見守り声掛け体験

認知症見守り声掛け体験は、どこシル伝言板のシール（二次元コード）の利用方法と認知症の人との接し方を学ぶ講座である。年間に1～2回実施している。メンバーは模擬体験の際に参加者のフォローを行いながら、一緒に認知症の方の関わり方を学んでいる。

アルツハイマー月間のイベント装飾

アルツハイマー月間に合わせてオレンジ色の折り紙で花を作成し、末廣農場と、市役所の正面玄関に装飾を行っている。

懇談会

年に2回程度実施し、日常生活での支援や困りごとを共有し解決策の検討を行い、認知症の学びの場としている。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

「認知症」に対して市民の関心が低く参加者数が少なかったため、認知症サポーター養成講座では、VR体験を講座内で実施するなど関心をもてるよう事業を進めている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年1～2回実施している。
講義内容は、認知症の理解と対応、グループワーク、チームオレンジについて。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

メンバーが認知症カフェに本人や家族をお誘いし、認知症本人の居場所づくりに繋がっていることや、市民同士の交流から、認知症の理解を深めることができている。

8 チームのアピールポイント

メンバーそれぞれが住み慣れた地域で日常生活を通して見守り活動を行っており、懇談会で情報共有が出来ている。特別な活動をしなくても日頃の生活の中で気づきがあったら、各地域包括支援センター等に相談できている。

9 今後の活動について

今後も既存の認知症カフェ等に参加し、認知症で困っている人の話を聞いたり、懇談会で支援方法を検討して支援を行っていきたい。

新たにメンバーを獲得するため、認知症サポーター養成講座を実施していく。

南房総市

チーム名
【チームオレンジ南房総】

タイトル
【地域一丸となって！住み慣れた地域で自分らしく！】

1 自治体情報（令和7年4月1日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|------------------|---|--------|------------------------|
| 33,832 人 | 16,237 人 | 47.99% | 230.22K m ² |
| 市(町)は こんなところ！ | 千葉県房総半島の最南端に位置し、2006年に周辺7町村が合併して誕生した市で、令和8年で市政20周年を迎えます。 東京湾と太平洋に面し、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、海の幸・山の幸、四季折々の花々、温泉、歴史的資源などが魅力で、観光地としても人気があります。 | | |

2 活動の概要

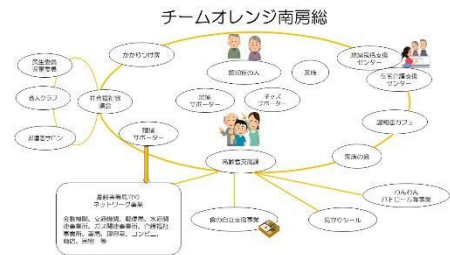
| | |
|------------------------|---|
| 開始時期 | 令和7年9月 |
| 実施主体 | 市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア（認知症カフェ） 社会福祉協議会 その他（ ） |
| 活動内容 | 認知症カフェを拠点としつつ、認知症の人や家族を支援する市内の関係機関をつなぐネットワーク |
| 活動頻度 | ・活動拠点となる認知症カフェの活動 おたがい茶間カフェ：週1回（毎週水曜日 月4回まで） おかげ茶間サロン：月1回（第1金曜日） ・チームオレンジ南房総ネットワーク会議：適宜（年1~2回） |
| 参加費 | 認知症カフェの参加費 200円 |
| 運営財源 | 市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ） 活動拠点の一つとなる認知症カフェについて |
| メンバー構成 | 認知症カフェ、市担当課（高齢者支援課）、南房総市社会福祉協議会、地域包括支援センター、在宅介護支援センター |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 市職員（認知症地域支援推進員も兼ねる） 地域包括支援センター職員 |
| チームオレンジの類型 1 | 第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他 |
| チームオレンジ三つの基本 について 2 | 3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

| | |
|-------|---|
| 令和5年度 | 市担当課でチームオレンジコーディネーター研修受講。チームオレンジ設置を検討。認知症カフェを活動拠点とした既存拠点活用タイプで活動をすすめる方針。 |
| 令和6年度 | 市内2か所の認知症カフェへチームオレンジについて説明、ステップアップ講座実施。チームオレンジ活動は、認知症カフェを拠点としつつ、市内の関係機関をつなぐネットワークとして捉えることとし、関係機関への説明。 |
| 令和7年度 | 9月 関係機関の理解、協力を得て「チームオレンジ南房総」設置。 11月 チームオレンジ南房総ネットワーク会議開催。 |

4 活動内容

- ・認知症カフェの実施
- ・チームオレンジ南房総ネットワーク会議の実施
関係機関の情報共有、課題の共有、活動計画の立案



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

認知症カフェを活動拠点とした既存拠点活用タイプで活動を進めていく方針であったが、ステップアップ講座受講からチームオレンジ設置まで関係機関との調整等に時間を要してしまったことが反省点。
チームオレンジを地域のネットワークと捉え、関係機関が顔を合わせて意見交換をする場を設けるようにした。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市内2か所の認知症カフェを対象に令和5年度にステップアップ講座を実施。
講師は、市職員でステップアップ講座講師研修受講済の職員。
今後も新規に認知症カフェの開設があった場合、ステップアップ講座の受講を勧奨していく。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>
地域が抱える課題の共有化
<課題>
移住者の方が地域と繋がりにくく、孤立化している。
必要な医療、サービスに繋がりにくい。
本人参加に繋がらない
担い手不足。

8 チームのアピールポイント

つながり
顔の見える関係性

9 今後の活動について

- ・チームオレンジ南房総ネットワーク会議を定期的で開催して、関係機関の連携を図る。
- ・認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座を受講したサポーターのネットワークづくり。

匝瑳市

チーム名

【認知症と共に生きるオレンジの会】

タイトル

【多様な認知症カフェを実現】

1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|-----------------|---|-------|-------------------------|
| 33,024人 | 12,339人 | 37.4% | 101.48 K m ² |
| 匝瑳市は こんなところ！ | <p>千葉県北東部に位置し、北は里山、南は九十九里浜に面しています。都心から70km圏内、成田空港まで車で30分の距離にあり、植木・苗木の産地で日本最大の栽培面積を誇ります。</p> <p>市の名前自体が特徴的で、「読めない、書けない、どこにあるかわからない」がキャッチフレーズ。兵庫県宍粟市と共に難読地名で市のPR活動を行っており、難読地名の“東の横綱”と言われています。地域包括支援センターは2か所（直営1・委託1）です。</p> | | |

2 活動の概要

| | |
|------------------------|---|
| 開始時期 | 令和5年4月 ※チームオレンジとして |
| 実施主体 | <input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| 活動内容 | ①オレンジカフェ（認知症カフェ）の開催 ②オレンジファームの開催 ③家族交流会への参加 |
| 活動頻度 | それぞれ月1回 |
| 参加費 | 1回100円 |
| 運営財源 | <input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（企業等からの協賛金） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| メンバー構成 | 認知症と共に生きるオレンジの会会員 認知症の人とその家族、認知症サポーター、民生委員、 地域包括支援センター、認知症地域支援推進員 |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 地域包括支援センター職員 |

| | |
|---------------------------------|--|
| <p>チームオレンジの類型 ※1</p> | <p><input type="checkbox"/>第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/>第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/>第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/>その他</p> |
| <p>チームオレンジ三つの基本 について ※2</p> | <p><input checked="" type="checkbox"/>3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/>3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている</p> |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

毎月1回開催していたオレンジカフェ（認知症カフェ）がコロナ禍で開催困難となり、主催するボランティア団体（構成員の多くが認知症サポーター）と担当課でこれからの活動を考えた際、「屋外での認知症カフェ」「野菜の収穫」といった意見が聞かれ、実現に向けて検討を開始。「オレンジファーム」と名付けた“認知症カフェ+家族交流・相談の場”が始動。本格的な実施に向け、ステップアップ講座を受講していただき、チームオレンジとして位置づけた。オレンジカフェ、家族交流会の活動も再開している。

また、小学校を対象とした認知症サポーター養成講座において寸劇を披露し、認知症普及啓発の一端を担っている。

4 活動内容

〈オレンジカフェ〉

毎月1回のカフェ運営。コーヒーやお茶、茶菓子の提供をしている。

対話の他に季節の歌を歌ったり小物作りや折り紙などのレクを行っている。

大漁節を皆で踊ることが、カフェの締めくくりの定番。



〈オレンジファーム〉

毎月1回。開催日は作物の生育状況を見て決めている。時期によって、種まき・苗植え・収穫・草取り等を行う。収穫した作物は、参加者で持ち帰る。

参加者にも意見を聞きながら、育てる作物を決めている。



〈家族交流会〉

オレンジカフェと同日に、同会場別室にて開催している市主催の家族交流会に参加し、介護者の話の傾聴や悩みの助言、お茶やコーヒー、茶菓子の提供などを行う。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・活動ポスターを作成し、ボランティアメンバー自らが、医療機関や薬局を含め、それぞれ馴染みの場所へ周知に出向くようにした。
- ・活動についての相談や悩みについて、担当課（直営地域包括支援センター）が随時相談を受ける体制を取っている。
- ・ステップアップ講座の受講者にオレンジカフェやオレンジファームへの参加意向を確認し、希望者が活動に結び付けられるよう、工夫している。
- ・オレンジファーム開催前には、屋外活動での高齢者への留意点を学ぶ機会を設けた。
- ・カフェ終了後に毎回実施するミーティング（当日の振り返りや今後のレク内容等）には担当課（直営地域包括支援センター）も参加し、後方支援できる体制を取っている。



6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年1回、市内公共施設の会議室等で開催。認知症地域支援推進員/千葉県認知症コーディネーター（直営・委託地域包括支援センター、市内介護事業所に所属）で内容を検討し、当日もスタッフとして参加している。

チームオレンジについては、チームオレンジのメンバーから具体的な活動内容を紹介している。

〈講座内容〉所要時間 2時間半

1. 認知症を取り巻く現状
2. 認知症の理解
3. 認知症の人とのコミュニケーション実践
4. 地域活動紹介
5. チームオレンジについて



【写真】

「認知症の人とのコミュニケーション実践」の様子。事例を映像で見て、対応の仕方についてグループワークを行った。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・参加者同士がつながり、新たな出会いの場になっている。
- ・地域包括支援センターやケアマネジャーから参加に関する問い合わせが来るようになり、少しずつ周知されつつある。
- ・認知症の人本人が参加を楽しみにしてくれている。

<課題>

- ・オレンジカフェ、オレンジファームともに1カ所ずつであり、移動手段がなく参加できないとの声がある。
- ・「新しい認知症観」が活動の中で実践できているか、認知症の人本人が語る場ができる場になっているか、評価できていなかった。

8 チームのアピールポイント

- ・誰もが楽しく過ごせる場づくりを目指している。
- ・笑顔が多く、活気ある雰囲気を作り出すメンバー。
- ・主催団体である認知症と共に生きるオレンジの会は、小学生を対象とした認知症サポーター養成講座にて寸劇を披露するなど、認知症支援に幅広く携わっている。

9 今後の活動について

- ・より多くの人に参加できる場になるよう、周知啓発方法を工夫していきたい。
- ・定期的にチームオレンジのメンバーが自分たちの活動を振り返る機会を持ち、より認知症の人本人にとって居心地の良い場の提供を目指していきたい。
- ・オレンジカフェやオレンジファームが「認知症の人本人が語ることのできる場」としての位置づけになれるように働きかけていきたい。

香取市

| |
|---------------------------------|
| チーム名 【 香取オレンジ会 】 |
| タイトル 【 認知症の人が安心して暮らせる地域づくり 】 |

1 自治体情報（令和7年4月1日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|-----------------|---|--------|-----------------------|
| 69,153 人 | 26,757 人 | 38.69% | 262.3K m ² |
| 香取市は こんなところ！ | 千葉県北東部に位置し、北部は利根川流域の水田地帯、南部は北総台地の一角を占め、山林や畑が広がる地域です。 東国三社の一つ「香取神宮」、日本初の実測日本地図を作成した偉人「伊能忠敬」が有名です。 | | |

2 活動の概要

| | |
|------------------------|--|
| 開始時期 | 令和4年12月 |
| 実施主体 | 市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ） |
| 活動内容 | 各自の所属団体での見守り・声掛け、アルツハイマー月間啓発活動への参加、カフェのお手伝い、研修会参加 |
| 活動頻度 | 各自の所属団体での継続した活動 啓発・カフェ・研修開催時 |
| 参加費 | 0円 |
| 運営財源 | 市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金（研修会） その他（所属団体の財源） |
| メンバー構成 | 本人、家族、認知症地域支援推進員、キャラバンメイト 認知症サポーター・ステップアップ研修受講者 認知症初期集中支援チーム員、認知症家族会 認知症カフェ、グループホーム職員、小多機職員 |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員） |
| チームオレンジの類型 1 | 第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他 |
| チームオレンジ三つの基本 について 2 | 3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

チームオレンジ設置前から認知症予防や地域での活動を行っている既存の団体に対し、令和4年度に認知症サポーター・ステップアップ研修会を開催し、香取オレンジ会の結成に至った。

4 活動内容

1) 各団体の特徴をいかし、地域において通いの場（サロンやカフェ）の定期的な開催、介護予防、見守り・声かけ、話し相手、情報提供などを実施。

2) 認知症の啓発

- ・チーム員主導による月間中のイベントの企画、開催、協力
- ・9月世界アルツハイマー月間の展示物作成（通いの場参加者とともに制作）
- ・オレンジ色の花を育て、パネルで活動を紹介、イベント会場を飾る



3) 認知症カフェのお手伝い

4) 認知症家族のつどいの開催

5) 香取オレンジ会研修会への参加

6) ロバマスコットを作成、認知症サポーター養成講座を受講した小学生に配付

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

研修会において、市の認知症の取組みを知り、香取オレンジ会の実際の活動内容や今後できそうなこと等を話し合い、学びを深めるとともに情報共有することで、意識向上や更なる活動につながるような構成とし、取組みは各自が自発的に行えるよう、はたらきかけをしている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

開催回数：年1回

内容：市の認知症の取組みについて、認知症の知識や適切な接し方の振返り、徘徊高齢者等見守りシール交付事業について、チームオレンジについて

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果> 各団体等で見守り等活動を継続するなかで、より具体的な対応の仕方などについて意識が高まっている。

<課題> 見守り活動等にいかすための内容を、研修等で行っていくこと。また、活動を広げるための検討が必要。

8 チームのアピールポイント

普段からの顔の見える関係を意識して取組み、認知症になっても住み慣れた地域で暮らせるよう地域全体で見守る体制づくりにつながっている。

9 今後の活動について

- ・ 認知症の啓発活動を継続
- ・ 認知症の方や家族のやりたいこと等を少しずつ聞けるようにしていき、地域でできることを検討する。

大網白里市

| |
|------------------------|
| チーム名 【チームオレンジ大網白里♀】 |
| タイトル 【 あんとんねえさ～ 】 |

1 自治体情報（令和7年12月1日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|-------------------|---|-------|-----------------------|
| 47,218 人 | 16,630 人 | 35.2% | 58.08K m ² |
| 大網白里市は こんなところ！ | 東京都心から50～60キロメートル圏域に位置し九十九里平野のほぼ中央にあります。西は緑豊かな丘陵部、東は白砂青松の海岸部という特色ある豊かな自然を持つ風土を有しています。 | | |

2 活動の概要

| | |
|------------------------|--|
| 開始時期 | 令和5年2月 |
| 実施主体 | 市町村 地域包括支援センター（直営） 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ） |
| 活動内容 | 認知症カフェの運営、見守り・傾聴訪問等 |
| 活動頻度 | 月1回（見守り訪問はチーム員の都合による） |
| 参加費 | 無料 |
| 運営財源 | 市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ） |
| メンバー構成 | ・認知症サポーター ・認知症サポーターステップアップ講座受講者 ・認知症当事者 |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員） |
| チームオレンジの類型 1 | 第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他 |
| チームオレンジ三つの基本 について 2 | 3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和4年度に認知症サポーターステップアップ講座を開催し、講座終了後チームオレンジへの参加希望者を募り結成した。令和5年度も同講座を開催し新たなメンバーが加入し、令和6年度から認知症サポーター養成講座のアンケートにチームオレンジの記載欄を設け、参加希望者を募り適宜活動に案内している。

4 活動内容

- ・ あったかスペースモクセイ（認知症カフェ、in デニーズ）の運営、内容（イベント）の企画
- ・ 認知症高齢者宅への訪問、話し相手等
- ・ 世界アルツハイマー月間の展示物の製作



（写真左）あったかスペースモクセイの様子。参加者は話をすることを毎回楽しみにして来られています。地域の人が集まり多世代が交流する憩いの場になっています

（写真右）世界アルツハイマー月間の取組み
市役所ロビー、市内図書室で認知症について、認知症の方が描いた絵画の紹介、ロバ隊長ストラップの配布、顔抜きパネルや塗り絵スペース、チームオレンジメンバーとモクセイの参加者で書いた寄せ書きなどを掲示し啓発を行いました。
ロバ隊長ストラップは大好評で年間を通して作成し配布することのになりました



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

チームオレンジを立ち上げた当時、市内に認知症カフェがなかったため、あったかスペースモクセイを立ち上げ活動拠点とした。当事者も運営に参加し始め、チーム員が主体性をもって活動できるよう配慮している。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

開催状況：認知症サポーター養成講座受講者を対象に年1回の頻度で開催。

講座内容：認知症の理解を深める、認知症の人とのコミュニケーション・対応方法(パーソンセンタードケア、グループワーク)、チームオレンジの紹介、市の現状と認知症施策の説明。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・地域の中でチームオレンジが認識されるようになり、居場所づくりの一環となっている。
- ・あったかスペースモクセイ終了後、振り返りや今後の企画について話し合うことでチームに一体感が出てきている。

<課題>

- ・あったかスペースモクセイ以外の活動の充実。

8 チームのアピールポイント

メンバーは様々な立場の方がおり、それぞれの多様な考え方をチーム内で共有しその意見を活動に反映している。チームの雰囲気やメンバー間の仲も良く和気あいあいと運営している。

9 今後の活動について

- ・認知症の本人や家族等の参加者がつながりを持ち「ここに来てよかった」とあったかい気持ちになれるカフェ(居場所)にしていきたい。
- ・活動場所の充実を図っていく

芝山町

チーム名

【 チームしばっこ 】

タイトル

【 みんなの居場所「しばっこカフェ」 】

1 自治体情報（令和7年4月1日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|-----------------|---|--------|-----------------------|
| 6,606人 | 2,436人 | 36.88% | 43.47K m ² |
| 芝山町は こんなところ！ | 千葉県北東部に位置し、日本の玄関である成田国際空港に隣接しているため、至るところで飛行機の姿が目に入り、おのずと空を見上げてしまいます。町の面積の大半を農地が占め、四季折々の野菜や花々など自然豊かであり、埴輪をはじめ数多くの遺物が発掘され古代の趣を感じられる町です。 | | |

2 活動の概要

| | |
|-------------------------|--|
| 開始時期 | 令和4年7月 |
| 実施主体 | <input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| 活動内容 | 認知症カフェの運営 |
| 活動頻度 | 毎月1回 |
| 参加費 | 100円 |
| 運営財源 | <input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| メンバー構成 | <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターステップアップ講座修了者 ・居宅介護支援事業所のケアマネジャー ・地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員） |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 地域包括支援センター（認知症地域支援推進員） |
| チームオレンジの類型 ※1 | <input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他 |
| チームオレンジ三つの基本 について ※2 | <input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

- ・認知症サポーター受講者の中から、カフェでボランティアとして活動してくれる方を集った。数名の方がボランティアとして活動してくれることになり、認知症の方の居場所づくり、認知症の方を介護する家族の支えとなるように地域の方々が集まれる場所として、平成31年4月認知症カフェ「しばっこカフェ」を開設した。
- ・認知症サポーター養成講座を受講したカフェのボランティアに、認知症サポーターステップアップ講座を受講してもらい、令和4年6月「チームしばっこ」が結成された。

4 活動内容

- ・毎月1回の認知症カフェの運営、受付をし、茶菓子を出している。対話をメインとし、折り紙、トランプ、脳トレプリントなど参加者がやりたいことに取り組んでもらう。カフェの終わり頃には、全員で笑いヨガや歌を歌う。
- ・近所の方に認知症カフェへの参加の声掛け
【しばっこカフェ 笑いヨガの様子】



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・活動意欲が低下しないよう、定期的にメンバー同士で話し合いの機会を持ち気持ちを盛りあげている。
- ・カフェ参加者が1人にならないように、ボランティアが声をかけている。
- ・認知症の方に対しては、なるべく顔見知りのボランティアが同テーブルに入るようにすることで、安心して過ごせるよう心掛けている。
- ・3～4か月に1回、認知症カフェの日程を広報に掲載している。
- ・認知症サポーター養成講座や広報紙でボランティアを募集し、チームオレンジメンバーを増やしていけるようにしている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

3回に分けて講座を実施

- ・1回目（講義）：認知症についての基礎知識の復習。認知症の人との接し方について。
- ・2回目（施設実習）：町内の特別養護老人ホームへ行き、利用者と交流を図る。
- ・3回目（講義）講義：チームオレンジ・町の認知症施策について。施設実習で感じたこと、今後どのように活動していくか。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・ボランティアは、カフェの参加者に楽しく過ごせるような工夫（折り紙や脳トレ、笑いヨガなど）を考えたり、声掛けをしている。また本人のやりたいことができるように

支援してくれている。

- ・ボランティア自身の生きがいづくりになっている。
- ・認知症と診断がついていなくても、認知症疑いの方や MCI の方などがカフェで把握することができている。

<課題>

- ・活動が月1回のみとなっている。
- ・新規の参加者が少ない。
- ・地域包括支援センターが運営主体となっているので、チームしばっこのメンバーが主体的に活動できるように体制整備する。

8 チームのアピールポイント

- ・「地域のために貢献したい」と意欲あふれるチーム。カフェではチーム員の見守りのもと、自分のやりたいことに取り組めるので、楽しいひと時が過ごせている。
- ・チーム員全員、オレンジ色のエプロンを着用するため、一目でチームメンバーが分かる。

9 今後の活動について

- ・家族が認知症カフェ等の活動に誘いたくとも、本人が拒否し繋がらないケースもある。現在、チームオレンジメンバーによる訪問は実施していないが、どのように支援できるか検討していきたい。

横芝光町

| |
|--|
| チーム名 【 オレンジよこぴーの会 】 |
| タイトル 【 認知症の方や介護者が安心して楽しく暮らせる地域づくり 】 |

1 自治体情報（令和7年4月1日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|------------------|---|-------|-----------------------|
| 22,013 人 | 8,321 人 | 37.8% | 67.01K m ² |
| 横芝光町は こんなところ！ | <p>横芝光町は、千葉県北東部に位置し、成田国際空港からは約 20 km の距離にあります。形状は東西約 5 km、南北約 14 km と南北に細く、南は白砂青松の続く九十九里浜が広がり、太平洋に面しています。中央部から南部にかけては平坦地が続き、北部は緩やかな丘陵地帯を形成しています。また、九十九里平野における最大の河川栗山川が、中央部をゆったり流れ、カヤック体験や釣りができ、整備された沿道はサイクリングに最適です。千葉県でも最大級の梅林「坂田城跡梅林」が広大な敷地に広がり、見頃の時期には凜とした純白の花を咲かせる約 1,000 本の巨木は圧巻です。</p> | | |

2 活動の概要

| | |
|------------------------|--|
| 開始時期 | 令和6年9月 |
| 実施主体 | 市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ） |
| 活動内容 | 町の認知症啓発活動を共に行う。 認知症カフェ・認知症の人とその家族等のつどいでの協力 |
| 活動頻度 | 認知症啓発活動・認知症カフェ等の開催時 |
| 参加費 | |
| 運営財源 | 市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ） |
| メンバー構成 | 認知症サポーターステップアップ講座修了者 認知症サポーター、地域包括支援センター職員、 認知症地域支援推進員 |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 地域包括支援センター |

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>チームオレンジの類型 1</p> | <p>第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他</p> |
| <p>チームオレンジ三つの基本 について 2</p> | <p>3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている</p> |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和5年度に実施した認知症ステップアップ講座受講者で認知症サポーター活動に協力する意向がある方を対象に令和6年9月認知症サポーターのつどいを開催し、チームオレンジの活動について説明を行った。横芝光町チームオレンジ結成について参加者全員の賛同が得られ、「オレンジよこびーの会」が発足した。

4 活動内容

1. ロバくんのマスコットづくり

ロバのマスコットを作成し、町内全部の小中学校で開催している認知症サポーター養成講座で各クラスに配布する。

2. 認知症月間における図書館での普及啓発活動

(1) 小学生の認知症サポーター養成講座で作成した「認知症の方へのおもいやりの気持ち」を書いた葉っぱを図書館ロビーに掲示する。

(2) 認知症普及のための「しおり」を作成し、図書館ロビーにて配布する。

3. 認知症サポーター養成講座での協力

認知症サポーター養成講座で実施している寸劇で認知症の方の役をオレンジ・メイトが実施する。リアルな演技で小中学生も熱心に取り組むことが出来ている。

4. 認知症カフェ「キャンディカフェ」での協力

地域包括支援センターが以前から開催している認知症カフェ「キャンディカフェ」にて、見守り・声かけ・話し相手等、内容に応じた支援を行う。

5. 「認知症の人とその家族等のつどい」での協力

認知症の当事者と一緒に楽しくレクリエーションを行ったり、会話をすることで思いを聞き、対応について学ぶ。また、家族の話し合いの場に加わり、家族の思いを聞く。



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

オレンジ・メイトの皆さんが出来る範囲で無理なく参加して頂けるように配慮した。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回実施予定

【令和5年度開催内容】

1. 横芝光町の認知症の現状と取組みの状況について
2. 認知症の種類と特徴・認知症の症状を理解するための脳機能の基礎知識
3. 認知症の方への対応
4. チームオレンジとは？ 千葉県のチームオレンジ活動の紹介
5. グループワーク 「認知症の方を支えるために出来ること」

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果> 認知症啓発活動をオレンジ・メイトの皆さんと一緒に取り組むことで、新たなアイデアが生まれたり、オレンジ・メイトを通して、他の町民の協力も得られる等、活動が広がっている。

<課題> 当事者も含めたチームオレンジ活動ができるようにするため、新たな認知症カフェ等気軽に参加できる場づくりが必要である。

8 チームのアピールポイント

ボランティア意欲のある方々の集まりで協力的である。介護経験がある方等、皆さんの色々な経験が活動に生かされ、貴重な意見を頂くことで活動が広がっている。また、いきいきと楽しく活動に参加して頂いている。

9 今後の活動について

当事者が気軽に参加できる認知症カフェを増やし、さらに活動を広げると共に、チームオレンジ活動の担い手となるオレンジ・メイトの養成も合わせて実施していく。

睦沢町

| |
|------------------------|
| チーム名 【オレンジサークル】 |
| タイトル 【みんなに優しいまちづくり】 |

1 自治体情報（令和7年12月1日現在）

| 人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 面積 |
|-----------------|---|--------|-----------------------|
| 6,463 人 | 2,737 人 | 42.35% | 35.59K m ² |
| 睦沢町は こんなところ！ | 睦沢町には房総半島の中央部よりわずか東南に位置し、首都から70Km圏内にあります。河川沿岸は肥沃な農地が展開し、上総地区屈指の穀倉地帯であり、地下には豊富な天然ガスが埋蔵されていることが特徴です。冬でも0以下になることは少なく、穏やかに過ごしやすい気候に恵まれています。 | | |

2 活動の概要

| | |
|------------------------|--|
| 開始時期 | 令和6年10月 |
| 実施主体 | 市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ） |
| 活動内容 | ボランティア活動、認知症カフェの支援、認知症サポーター養成講座の劇団員 |
| 活動頻度 | 毎月第4木曜日 13:30～15:30 |
| 参加費 | 無料 |
| 運営財源 | 市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ） |
| メンバー構成 | <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターステップアップ講座修了者 ・認知症サポーターステップアップ講座受講予定の方 ・生活支援コーディネーター |
| チームオレンジ コーディネーターの属性 | 第1層生活支援コーディネーター |
| チームオレンジの類型 1 | 第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他 |
| チームオレンジ三つの基本 について 2 | 3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている |

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和4年度から認知症サポーターステップアップ講座を実施。
令和6年10月に講座修了者に参加と協力を呼びかけ参集。
賛同いただいたメンバーと共に、本格的に稼働となる。

4 活動内容

- ・色々な事例や既存の活動から「優しいまちづくり」のためにできることは何かとアイデアを出し合いながら活動内容を決めている。
- ・認知症関連のイベントのお手伝い
- ・各種ボランティア活動
- ・認知症カフェの支援
- ・認知症サポーター養成講座の劇団員
- ・GH入所者との交流



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

メンバーの特性、得意分野等に応じて活動内容に幅を持たせる工夫をした。
メンバー皆が興味を持てるような進め方をしていきたい。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

地域包括支援センターの職員が中心となって開催している

開催回数：1回/年 開催時間 2時間

開催場所：町役場

講師：認知症地域支援推進員（包括支援センター職員）+ 依頼した講師

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

当事者と関わることで接し方を学び、配慮することができるようになった。

<課題>

チーム員の高齢化

参加したくなるような仕組みづくり

参加者が主体となれると良い

8 チームのアピールポイント

皆で協力して「優しいまちづくり」を目指す。

9 今後の活動について

メンバーでアイデアを出し合いながら、認知症の方、そのご家族が住みやすい環境を作っていきたい。

担当部署

千葉県健康福祉部 高齢者福祉課 認知症対策推進班



住 所 〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1番1号

電 話 042-223-2237

ホームページ <https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/shien/ninchishou/supporter-caravan.html>